

RESAS を活用した授業

金沢大学 国際基幹教育院
松浦 義昭

RESAS (Regional Economy Society Analyzing System)

本研究は、RESAS（地域経済分析システム）を活用して地域の人口をテーマに授業を行った実践報告である。本授業の主題は、統計データに基づいて地域の現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることである。

1. はじめに

本研究は、RESAS（地域経済分析システム）を活用した授業を行った実践報告である。授業の学習目標は、RESASの基本的な操作方法を理解するとともに、客観的な統計データに基づいた現状・将来の分析から課題を発見し、その解決策をグループで多面的に議論することを通して域課題の解決に向けたアイデアを提案できるようになることである。

1.1 授業の概要

近年、グローバル化や知識基盤社会化が進展する中で、21世紀を生き抜く「確かな学力」を育成する一つの手段として、ICTを活用した学習が着目されている。本授業ではRESASを活用した「一斉学習」、「個人考察」、「協働学習」の展開により、学生同士が地域の現状と課題、求められる施策について活発な意見交換や発表を行うことで地域への理解を深めるとともに、地域の課題解決のために必要となる思考力・判断力・表現力などを高めていこうとするところに特色がある。

授業は、共通教育科目の選択必修科目である。初回ガイダンスから最終回の期末テストまで全8回である。開講するクラス数は年間20クラス（各クラスの定員は50名）である。大学一年生を対象とした本授業は、基礎編と応用編の二段階で構成されている。

基礎編では、RESASの基本的な操作と分析方法を学修する。発展編では、RESASのデータを基に地域の現状と課題を把握し、政策立案を行う。

1回90分の授業時間の配分は、前半の40分を解説や課題共有にあて、後半の40分はグループワークに、最後の10分を発表や振り返りにあてている。

1.2 人口マップの特徴

RESASの人口マップは、人口構成、人口増減、人口の自然増減、人口の社会増減、将来人口推計から構成されている。各データは、都道府県・市区町村単位で表示することができる。人口に関するデータの出典は、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」である。

2. おわりに

RESASを活用して地域の現状と課題について客観的な統計データに基づいて議論し、課題解決に向けた具体的な提言ができる学生を育てることを目標として、ICTを活用した授業を実施した。RESASを活用した、より教育効果の高い学習デザインの構築が今後の課題である。

3. 図表

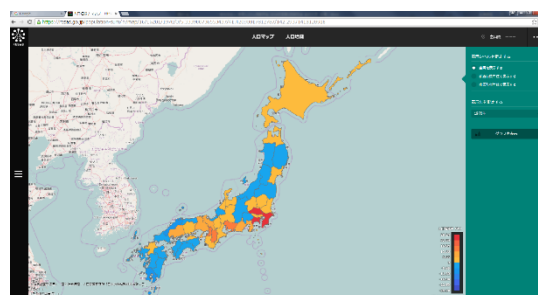


図1 RESASの人口マップ

謝辞

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局ビッグデータチームの皆様には多大なるご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。

参 考 文 献

- (1) 日経ビッグデータ編: “RESAS の教科書”, 日経 BP 社,
東京 (2016)
- (2) RESAS (地域経済分析システム) ,
<https://resas.go.jp/> (2016 年 8 月 15 日確認)